

青森市埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集

市内遺跡

詳細分布調査報告書

平成7年度

青森市教育委員会

序

豊かな自然に恵まれた青森市には、貴重な文化遺産が数多く存在しており、埋蔵文化財もその一つで、日本最大級の縄文集落で知られる三内丸山遺跡やストーンサークルを主体とする国指定史跡の小牧野遺跡など数多くの遺跡が所在しております。

これら先人の残した文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは、私たちに課せられた責務であります。これとともに、豊かで快適な住みよい生活を築くための地域開発や道路建設等は、市民の切実な要望であります。

埋蔵文化財の保護と各種開発事業との円滑な調整を図るうえで、遺跡の性格や所在地、範囲等の確認が必要であり、青森市教育委員会では平成4年度から、国庫ならびに県の補助金の交付を受けて、市内の遺跡詳細分布調査を実施してきております。

本書は、平成7年度に実施いたしました調査成果をまとめたものであり、埋蔵文化財に対する理解や保護に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導、ご協力を賜りました文化庁ならびに県教育庁文化課をはじめ、調査員の方々や、関係各位の皆様に寸し、深く感謝の意を表する次第であります。

平成8年3月

青森市教育委員会

教育長 池 田 敬

例 言

1. 本書は、国庫補助金の交付を受けて平成7年度に実施した青森市内遺跡詳細分布調査事業の報告書である。
2. 本文中の遺跡の位置図には、国土地理院発行の2万5千分の1の地図を利用し、上辺を北に統一して掲載した。なお、範囲に関しては地中にあるという遺跡の特異性により、あくまでも目安であり確定的なものではない。
3. 本書に掲載した遺跡は、新規登録遺跡と範囲を拡張した遺跡のみにとどめた。
4. 分布調査において、表面採集した資料は、青森市教育委員会が保管している。
5. 本書の作成にあたり、次の方々にご指導を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。
水田政雄・徳差義男

目 次

序
例 言
目 次

第 I 章 事業実施の概要	
第 1 節 調査目的.....	1
第 2 節 調査要項.....	1
第 II 章 調査概要	
第 1 節 調査地区.....	3
第 2 節 新規登録遺跡.....	4
第 3 節 範囲を拡張した遺跡.....	12
表面採集資料.....	14
まとめ.....	22
報告書抄録	

第 章 事業実施の概要

第1節 調査目的

近年、多種多様な開発事業が増加しており、それに伴い、埋蔵文化財が破壊・消滅の危機に瀕してきている。開発事業と埋蔵文化財保護の両者を円滑に調整していくためには、管内に所在する埋蔵文化財に関する資料の充実に努めなければならない。

以上の点を踏まえ、埋蔵文化財保護行政を推進していくうえで最も基本的なことは、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地の範囲・数・現況等の基礎資料を整備し、併せて新規遺跡の発見に努めなければならない。

この事業を標題の事業名で国庫補助金の交付を受け実施するものである。

第2節 調査要項

1. 対象地区

市内全域

2. 事業期間

分布調査 平成7年5月1日～平成8年3月31日

3. 調査主体者

青森市教育委員会

4. 調査体制

調査員 沼宮内 陽一郎

調査事務局

青森市教育委員会

教育長	池田 敬
生涯学習部長	矢野 順平
社会教育課長	津川 久善
埋蔵文化財対策室長	遠藤 正夫
室長補佐兼埋蔵文化財係長	川村 省三
主 査	武田 均
指導主事	長沼 圭一
主 事	田澤 淳逸
〃	上野 隆博(調査担当)
〃	小野 貴之(〃)
〃	木村 淳一(〃)

主 事

児 玉 大 成 (調 査 担 当)

5. 調査指導機関

文化庁

青森県教育庁文化課

6. 調査方法

市内全域を対象にし、特に開発が予想される地域を重点的に埋蔵文化財包蔵地の現地踏査を行う。

第 章 調 査 概 要

第 1 節 調 査 地 区

調査は5月から12月上旬まで実施した。対象地区は、標高200m以上の山岳地帯と海、河川、市街地を除いた市内全域とした。特に開発が予想される地域を重点的に踏査し、畑地等の表土が露出し表面観察が確実にできる地点を調査した。また、開発申請があった地区の現地立ち会いや周辺調査、一般市民からの情報提供をもとにした調査等も行った。

新規登録遺跡

- | | |
|----------|---------------------------------|
| 油川・西田沢地区 | 西田沢(6)遺跡、西田沢(7)遺跡、天田内(4)遺跡 |
| 新城地区 | 新城山田(3)遺跡 |
| 二股地区 | 二股(1)遺跡、二股(2)遺跡 |
| 高田地区 | 朝日山(6)遺跡、朝日山(7)遺跡 |
| 小館地区 | 桜苅(2)遺跡 |
| 大別内地区 | 野木(2)遺跡 |
| 合子沢・雲谷地区 | 合子沢松森(1)遺跡、合子沢松森(2)遺跡、雲谷山吹(2)遺跡 |
| 戸山・滝沢地区 | 月見野(5)遺跡、扇沢遺跡 |

範囲を拡張した遺跡

- | | |
|-------|-----------------|
| 大別内地区 | 山吹(4)遺跡、葛野(2)遺跡 |
| 高田地区 | 朝日山(2)遺跡 |
| 宮田地区 | 牛蒡畑遺跡 |



第 1 図 調 査 地 点

第2節 新規登録遺跡

遺跡名	西田沢(6)	立地	丘陵
遺跡番号	01251	現況	畑地
所在地	青森市大字西田沢山辺	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片・フレイク

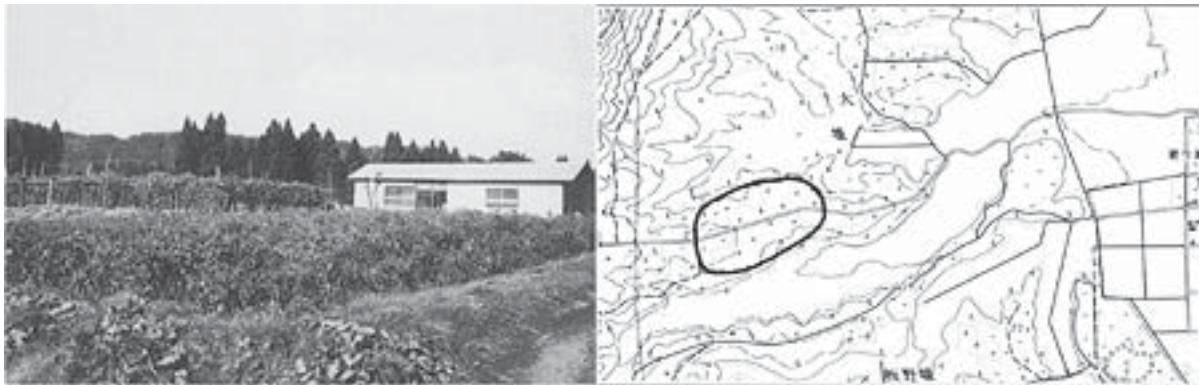


写真1 近景

位置図 1

遺跡名	西田沢(7)	立地	丘陵
遺跡番号	01252	現況	原野・山林
所在地	青森市大字西田沢山辺	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片

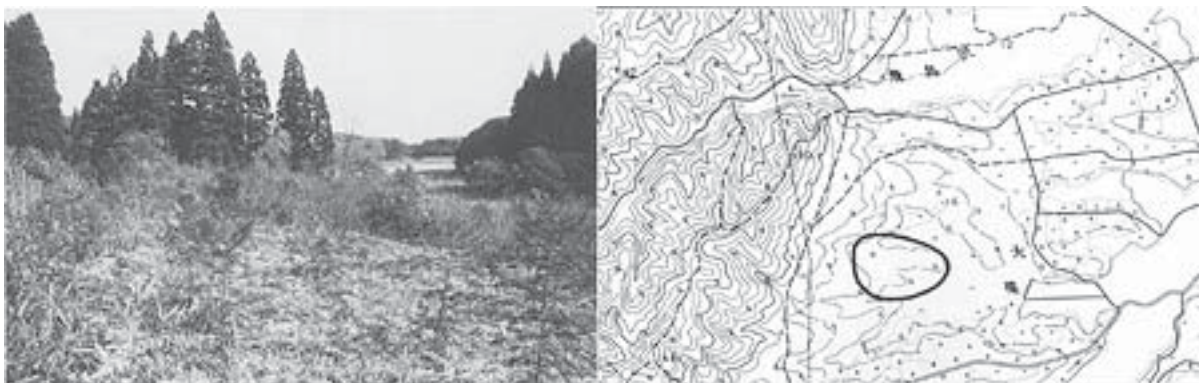


写真2 近景

位置図 2

遺跡名	天田内(4)	立地	丘陵
遺跡番号	01253	現況	畑地・山林
所在地	青森市大字新城天田内	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片



写真3 近景



位置図 3

遺跡名	新城山田(3)	立地	丘陵
遺跡番号	01254	現況	畑地
所在地	青森市大字新城字山田	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器数片・須恵器



写真4 近景



位置図 4

遺跡名	二股(1)	立地	丘陵
遺跡番号	01255	現況	畑地
所在地	青森市大字岩渡字熊沢	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片



写真5 近景



位置図 5

遺跡名	二股(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01256	現況	畑地・山林
所在地	青森市大字岩渡字熊沢	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片



写真6 近景



位置図 6

遺跡名	朝日山(6)	立地	丘陵
遺跡番号	01257	現況	水田・畑地
所在地	青森市大字高田字朝日山	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器片



写真7 近景

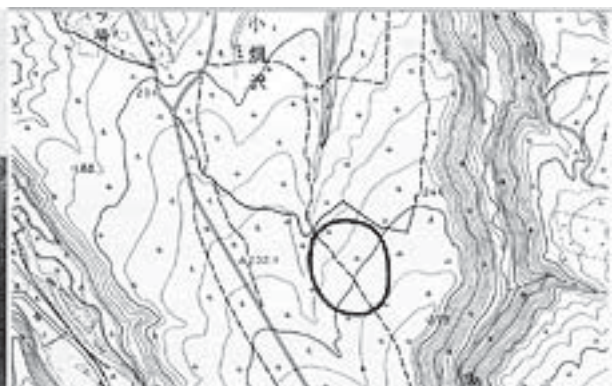


位置図 7

遺跡名	朝日山(7)	立地	丘陵
遺跡番号	01258	現況	畑地
所在地	青森市大字高田字朝日山	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器片



写真8 近景



位置図 8

遺跡名	桜苧(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01259	現況	畑地
所在地	青森市大字小館字桜苧	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片・フレイク



写真9 近景

位置図 9

遺跡名	野木(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01260	現況	山林・原野
所在地	青森市大字小畑沢字小杉	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片

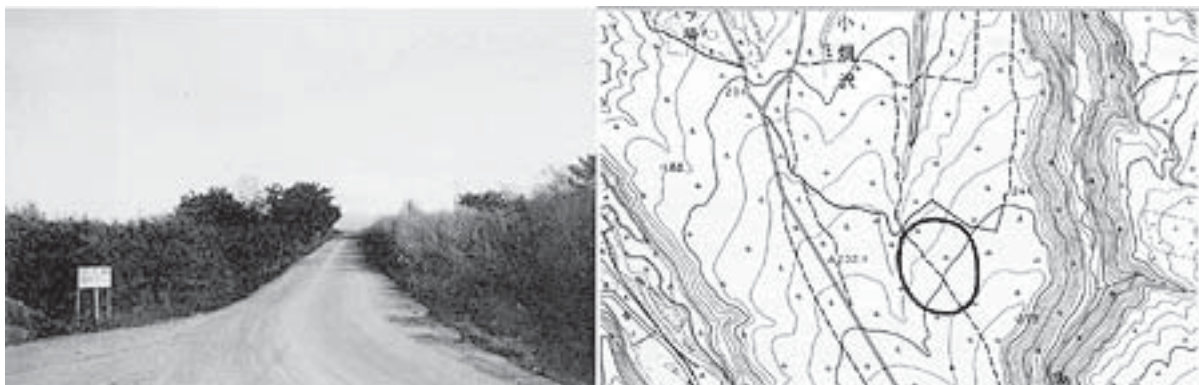


写真10 近景

位置図 10

遺跡名	合子沢松森(1)	立地	丘陵
遺跡番号	01261	現況	畑地
所在地	青森市大字合子沢松森	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片



写真 11 近景

位置図 11

遺跡名	合子沢松森(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01262	現況	畑地
所在地	青森市大字合子沢字松森	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器片



写真 12 近景

位置図 12

遺跡名	雲谷山吹(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01263	現況	畑地・山林
所在地	青森市大字雲谷字山吹	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片



写真 13 近景



位置図 13

遺跡名	月見野(5)	立地	丘陵
遺跡番号	01264	現況	畑地
所在地	青森市大字駒込字月見野	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器数片



写真 14 近景



位置図 14

遺跡名	扇沢	立地	丘陵
遺跡番号	01265	現況	畑地
所在地	青森市大字三本木字扇沢	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片



写真 15 近景

位置図 15

第3節 範囲を拡張した遺跡

遺跡名	山吹(4)	立地	丘陵
遺跡番号	01237	現況	原野・山林
所在地	青森市大字大別内字山吹	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片・フレイク



写真 16 近景



位置図 16

遺跡名	葛野(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01218	現況	山林
所在地	青森市大字大別内字葛野	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器片



写真 17 近景



位置図 17

遺跡名	朝日山(2)	立地	丘陵
遺跡番号	01197	現況	畑地
所在地	青森市大字高田字朝日山	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器片

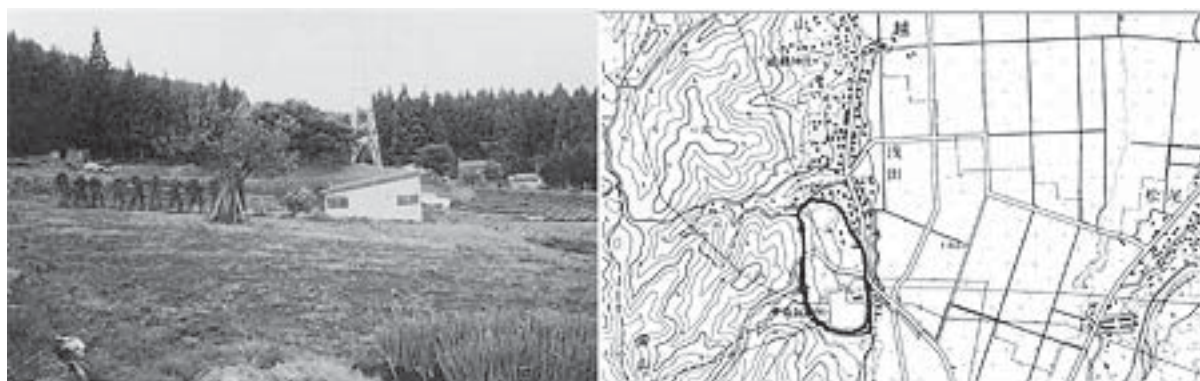


写真 18 近景

位置図 18

遺跡名	牛蒡畑	立地	丘陵
遺跡番号	01191	現況	畑地
所在地	青森市大字諏訪沢字山辺	時代	縄文時代
種別	散布地	遺物	縄文土器片・フレイク

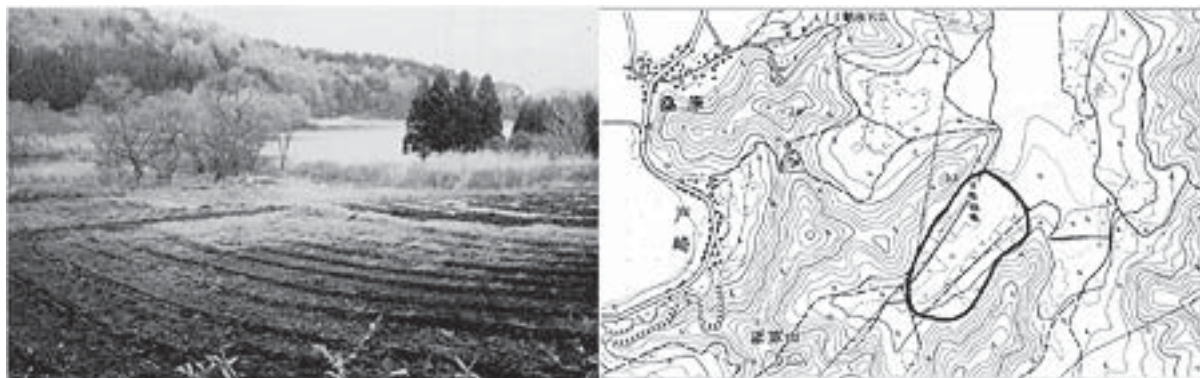
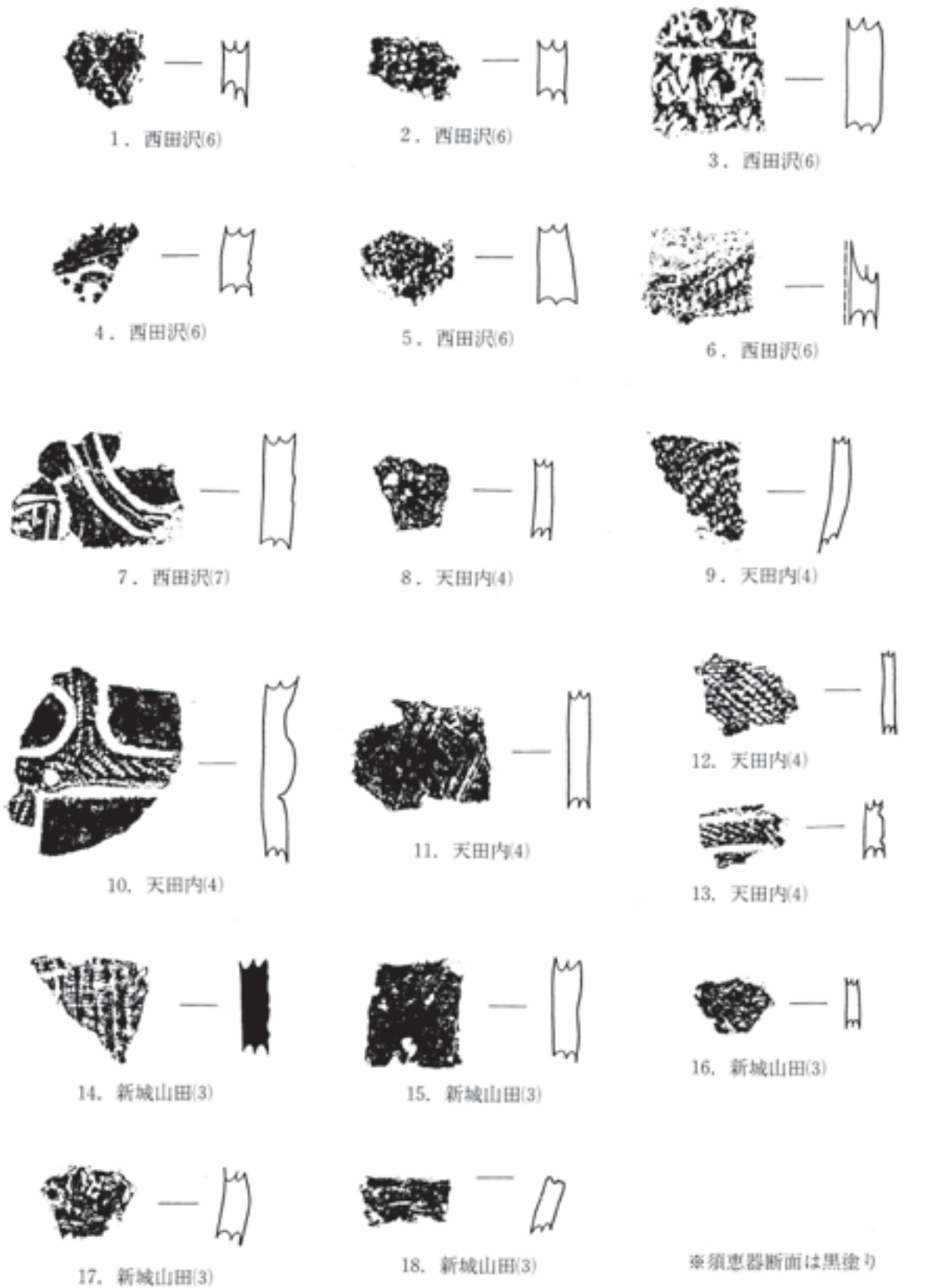
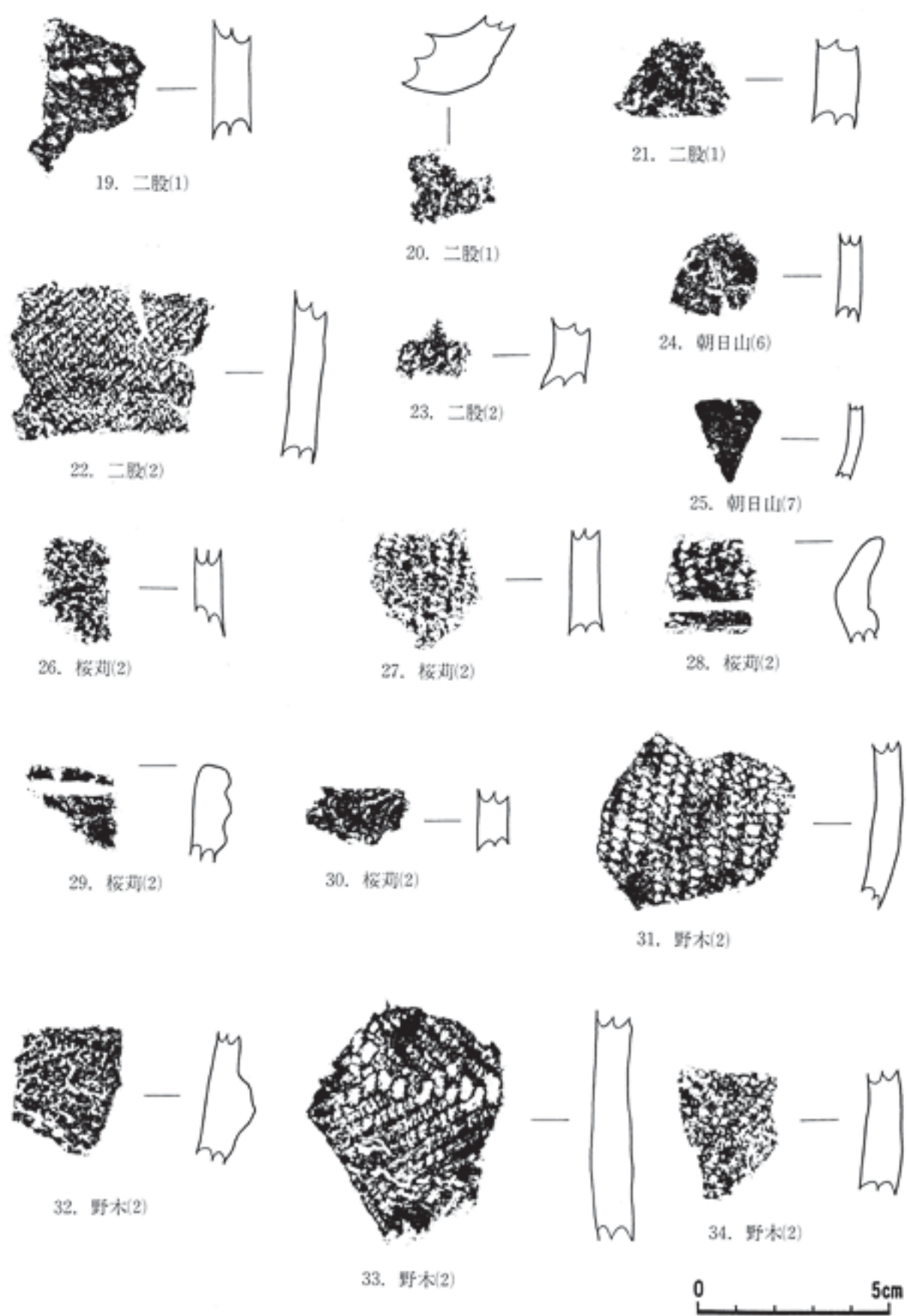


写真 19 近景

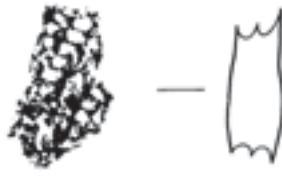
位置図 19



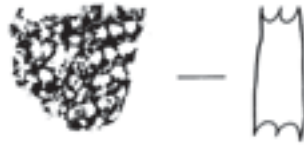
0 5cm



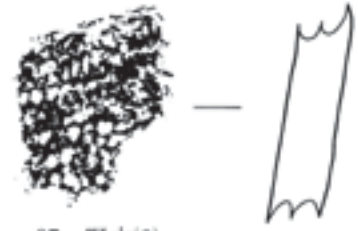
第3図 表面採集資料



35. 野木(2)



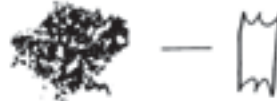
36. 野木(2)



37. 野木(2)



38. 合子沢松森(1)



39. 合子沢松森(1)



40. 合子沢松森(1)



41. 合子沢松森(2)



42. 合子沢松森(2)



43. 合子沢松森(2)



44. 雲谷山吹(2)



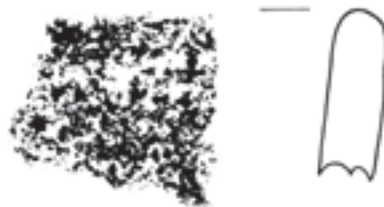
45. 月見野(5)



46. 月見野(5)



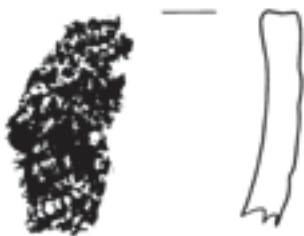
47. 月見野(5)



48. 月見野(5)

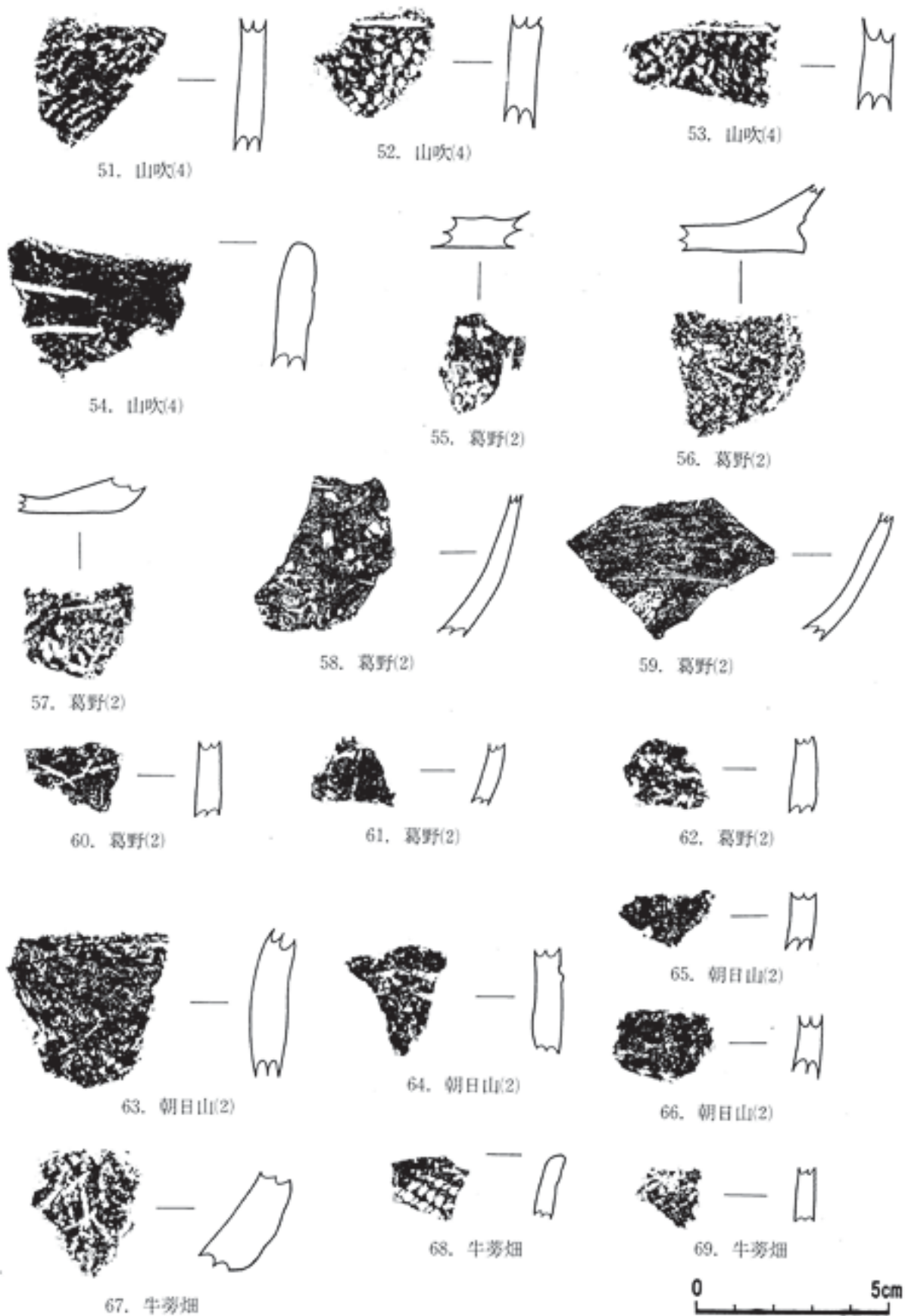


49. 月見野(5)



50. 扇沢





第5図 表面採集資料



1. 西田沢(6)



2. 西田沢(6)



3. 西田沢(6)



4. 西田沢(6)



5. 西田沢(6)



6. 西田沢(6)



7. 西田沢(7)



8. 天田内(4)



9. 天田内(4)



10. 天田内(4)



11. 天田内(4)



12. 天田内(4)



13. 天田内(4)



14. 新城山田(3)



15. 新城山田(3)



16. 新城山田(3)



17. 新城山田(3)



18. 新城山田(3)



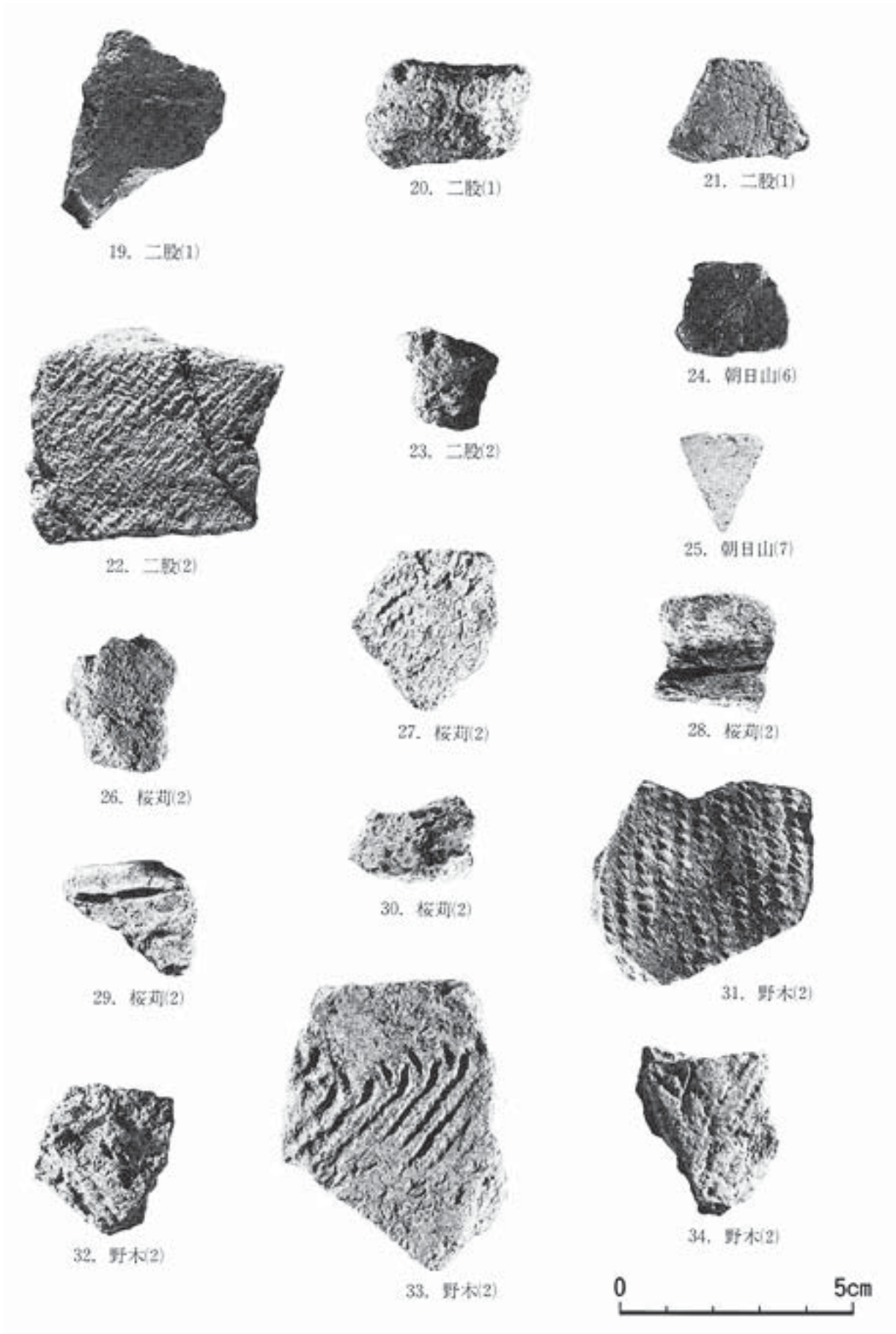


写真 21



35. 野木(2)



36. 野木(2)



37. 野木(2)



38. 合子沢松森(1)



39. 合子沢松森(1)



40. 合子沢松森(1)



41. 合子沢松森(2)



42. 合子沢松森(2)



43. 合子沢松森(2)



44. 雲谷山吹(2)



45. 月見野(5)



46. 月見野(5)



47. 月見野(5)



48. 月見野(5)



49. 月見野(5)

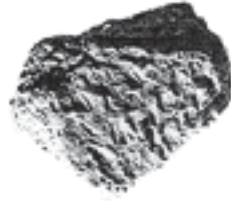


50. 扇沢





51. 山吹(4)



52. 山吹(4)



53. 山吹(4)



54. 山吹(4)



55. 葛野(2)



56. 葛野(2)



57. 葛野(2)



58. 葛野(2)



59. 葛野(2)



60. 葛野(2)



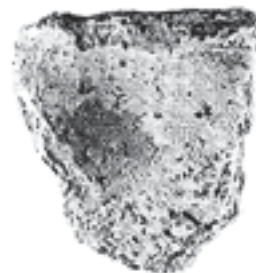
61. 葛野(2)



62. 葛野(2)



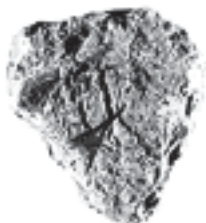
63. 朝日山(2)



64. 朝日山(2)



65. 朝日山(2)



67. 牛蒡畑



68. 牛蒡畑



66. 朝日山(2)



69. 牛蒡畑



ま と め

今年度の分布調査によって15箇所の新規遺跡を発見し、4箇所の遺跡範囲の拡張を行った。

平成8年3月末日現在の周知の遺跡数は281箇所である。これらの遺跡は、耕作地の踏査を中心とした遺物の表面採集による発見であったが、沖積地及び林間部が大半を占める丘陵地の調査が地表面の観察では極めて困難なことを考えると、いまだ膨大な数の未発見の遺跡が地下に埋もれているものと推察できる。

これまで標高200m以下の丘陵地を中心に分布調査を実施してきたが、ここ数年、標高200mを越える高地から縄文遺跡が発見されてきている。特に、青森市南側に位置する丘陵地は、新規遺跡の発見が急増している地域であり、同時に大規模な土地開発事業等が計画されている地域でもあることから、これらの丘陵地は、今後重点地域として分布調査を強化する必要がある。

また、今回の調査では4箇所の遺跡において範囲を拡張したが、市内には遺跡間の距離及び立地条件等から考えると、周知の遺跡の統合・拡大・縮小を再検討すべき遺跡が相当数想定することができそうである。

特に、標高20～50mの低丘陵地に点在する遺跡が該当しており、今後、遺跡の踏査、採取遺物等の再吟味を積極的に推進してまいりたい。

今年度もまた、市内には様々な大規模土地開発事業計画が持ち上がり、範囲等、より詳細な遺跡の資料整備が必要となった年であったが、常に迅速かつ最新の遺跡資料を提示できるためにも当事業は、今後も継続して実施する予定である。

今回の分布調査の実施及び本書の刊行にあたり、現地踏査では、土地所有者から快く踏査させていただき、また地元の多くの方々からの情報提供等、ご教示・ご協力をいただき、ここに感謝するとともに、今回の調査で得られた成果が市民の方々に活用され、また、開発行為と埋蔵文化財保護との円滑な基礎資料となることを祈念する次第である。

(担当者一同)

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこくしょ							
書名	市内遺跡詳細分布調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第29集							
編著者名	上野隆博							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL0177-34-1111							
発行年月	日西暦 1996年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しないいせき 市内遺跡	あomoriken 青森県 あomorishinai 青森市内	02201	-	-	-	19950501 ~ 19960329	-	-
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
市内遺跡		縄文時代 ~ 平安			縄文土器 土師器			

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ッ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『螢沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	
〃	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	
〃	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	
〃	1986	『横内城遺跡発掘調査報告書』	
〃	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	
青森市埋蔵文化財調査報告書第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1994	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)遺跡・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書第29集

市内遺跡詳細分布調査報告書

発行年月日 平成 8 年 3 月 29 日

発行 青森市教育委員会

〒030 青森市中央一丁目22 - 5

TEL 0177 - 34 - 1111

印刷 東北印刷工業株式会社

〒030 青森市本町二丁目11 - 16

TEL 0177 - 75 - 1431
